

福岡県交通安全施設業協会の「平成31年賀詞交歓会」開く  
 会員ら関係者約200人が、協会の更なる発展と新たな飛躍を誓う



協会の更なる発展と新たな飛躍を誓い合った「平成31年賀詞交歓会」

(一社)福岡県交通安全施設業協会(田中賢哉会長)の「平成31年賀詞交歓会」は24日、福岡市の博多サンヒルズホテルで開催した。会員や賛助会員と顧問の福岡県県議会議員(自民党福岡県議団)、来賓の福岡県県土整備部の見坂茂範部長と幹部職員、福岡県土木親和会の関係者ら約200人が出席し、新年を迎えるに当たり、元気な組織づくりにまい進し、協会の発展と新たな飛躍を誓い合った。

交歓会は近藤正明副会長の開会挨拶に続いて、来賓紹介があり、挨拶に立った田中会長が「当協会は設立してから2年、正会員73社、賛助会員23社の合計96社の専門業種団体。昨年6月8日には福岡第一高等学校で出前講座を実施、6月12日から3日間、路面標示施工技能士検定を開催し、会員19社、28名が受検。7月には豪雨災害が発生し、大規模災害時における支援協定に基づいて、速やかな支援協力ができました、一社一社の規模は小さいが、会員が力を合わせると福岡県内で災害がいつ、どこで起きても駆けつける体制ができています。今年度から当協会で区画線、路面標示等の調査活動をさせて頂き、調査結果を県土整備部道路維持課に提出、今後は道路標識、防護柵、劣化等の点検調査、更新時期の調査、そして歩道等の危険個所の調査を行っていきます。また、8月には第一回県標会研修会も開催しました」と昨年の活動を振り返り、「専門工事業として道路標識、路面標示または防護柵に関する施工技術の向上、製品に対する知識、労働災害の防止や社会的地位の向上など協会の健全な発展を目指し、業界が元気になるような組織作りに頑張っていきたい」と決意を示した。



主催者挨拶の田中会長



挨拶の蔵内顧問

顧問代表の蔵内勇夫県議（自民党福岡県連会長）は「きょう、想像を超える会員の皆様にご参集頂き、この2年間着実に実績をつくり、そして成長された姿を見ることができ、顧問として嬉しく思っています。協会は設立以来、県土整備部や福岡県警としっかり連携を結び、社会環境づくりを通して、福岡県の発展に大きく貢献しており、感謝します」と挨拶した。



来賓挨拶の見坂部長

続いて、来賓の福岡県県土整備部の見坂部長は「平成29年に大規模災害時における支援協定を締結させていただきましたが、昨年7月の西日本豪雨の際には協定に基づき、迅速、速やかに円滑な交通安全の実施や交通確保にご尽力賜り、感謝申し上げます。協会の皆様は県内各地の隅々までご存知であり、県土整備部にとって大変心強い」、「政府の来年度公共事業予算は、対前年度比15%増、全体6兆円の15%で、約7千億円になります。福岡県に關係予算を持ってこれる

ように努力していきたい」など感謝と抱負を述べ、「交通安全の仕事は、人間が地球に住み続ける限り無くならない、今年一年間新しい将来展望を持って明るく元気に仕事をして頂きたい」と激励した。

このあと、祝電披露があり、顧問の原口剣生福岡県議（自民党福岡県議団会長）が乾杯の発声を行い、開宴。協会の更なる発展と新たな飛躍を祈念して、和やかに歓談した。



乾杯発声の原口顧問